

図書館だより

第2号

2018年6月号

最近、様々な本の賞を耳にします。そもそも文学賞とは、優れた文学作品やそれを執筆した作家に対して授与される賞の総称です。有名な賞もあれば、最近できた新しい賞も。今回は、みなさんも聞いたことのある文学賞を受賞した作品を紹介したいと思います。良い作品に触れることはとても価値ある経験となります。ぜひ、今後の本選びの参考にさせていただけたらと思っています。

芥川賞 芥川賞とは、芥川龍之介賞のことであり、純文学の新人に与えられる文学賞です。文藝春秋社内の日本文学振興会によって選考が行われ、賞が受賞されます。第158回芥川賞には、**石井遊佳（ゆうか）**さんの「**百年泥**」（「新潮」11月号）と、**若竹千佐子**さんの「**おらおらでひとりいぐも**」（「文芸」冬号）が選ばれました。

「百年泥」は、日本で多重債務を抱えた女性がインドへ渡って日本語教師となったてんまつを、投げやりでユーモアあふれる筆致でつづられています。現地で100年に1度の洪水に見舞われ、大混雑する橋の上で汚泥の中からさまざまな記憶や想念が立ち上ってくるという作品です。

「おらおらでひとりいぐも」は、半世紀前に東北から上京し、家庭を営んできた74歳の女性「桃子さん」が主人公。夫を亡くして失意に沈んでいるものの、来し方と行く末について情緒に流れず、東北弁を駆使して思弁を深めていく。人生の再出発を宣言する明るいファンファーレが聞こえるような一作です。

直木賞 直木賞とは、直木三十五賞のことであり、無名、新人及び中堅作家による大衆小説作品に与えられる文学賞です。第158回直木賞には、**門井慶喜**さんの「**銀河鉄道の父**」が選ばれました。

「銀河鉄道の父」は、国民的童話作家である宮沢賢治の生涯を、質屋を営んでいた父親の政次郎の視点で描いた長編小説です。創作への情熱を傾けていく賢治との交流や対立を通じて、親子関係の在り方という普遍的なテーマを描いています。

本屋大賞

本屋大賞（ほんやたいしょう）とは、2004年に設立されたNPO法人・本屋大賞実行委員会が運営する文学賞です。一般に、日本国内の文学賞は、主催が出版社であったり、選考委員が作家や文学者であったりすることが多いですが、本屋大賞は、「新刊を扱う書店（オンライン書店含む）の書店員」の投票によってノミネート作品および受賞作が決定されます。

2018年4月10日に発表された第15回目の本屋大賞第1位は、**辻村深月**さんの「**かがみの孤城**」。学校に行けなくなった7人の中学生が、狼面をつけた少女にいざなわれ、鏡の向こうにある孤城に集うファンタジック・ミステリー。傑作です。

新書大賞

中央公論新社が主催する「新書大賞」は、1年間に刊行されたすべての新書から、その年「最高の一冊」を選ぶ賞です。今回で第11回を数える同賞は出版界に大きな反響を呼びました。今回の「新書大賞2018」では、2016年12月～2017年11月に刊行された1600点以上の新書を対象に、有識者、書店員、各社新書編集部、新聞記者など新書に造詣の深い方々86人に投票していただいた結果、**前野ウルド浩太郎**著『**バッタを倒しにアフリカへ**』（光文社新書）が大賞に輝きました。

バッタ被害を食い止めるため、バッタ博士は単身、モーリタニアへと旅立った。それが、修羅への道とも知らずに…。『孤独なバッタが群れるとき』の著者が贈る、科学冒険就職ノンフィクション！

6月といえば、梅雨入りというイメージですが、やはり忘れてはいけないのが、父の日ですね。母の日は覚えているけれど父の日っていつだったかな？と、つつい忘れてしまう人もいるのでは？そんなわけで、今回は父の日についてお話ししようと思います。

父の日とは

毎年6月の第3日曜日。2018年の父の日は、6月17日です。

日本で父の日が始まったのは、昭和25年頃と言われていますが、一般的な行事として広まったのは、1980年代だそうです。その起源は、アメリカの一人の女性の行動と言われています。彼女の父は軍人で、父の居ない間子ども達は母によって育てられましたが、戦争が終わって父が帰ってくるとまもなく母が亡くなり、その後父は再婚せず一人で大勢の兄弟の子育てをしてくれたそうです。彼女は母に感謝する日があるのに、父に感謝する日がないので、ぜひ作って欲しいと牧師協会に嘆願し、父の日が始まったようです。

母の日に、母が健在なら赤いカーネーションを、亡くなっている場合は白いカーネーションを送ることは、みなさんもよく知っていると思いますが、父の日には何を送るのか知っていますか？父の日には、**黄色いバラ**を送るのだそうですよ。なぜなら、イギリスでは黄色は「身を守るための色」であり、アメリカでは「愛する人の戦場での無事と帰還を願う色」とされ、このことから黄色は「命に関わる大切な色」「愛と信頼と尊敬を表す色」として世界各国に広まったのだそうです。1981年に「日本ファーザーズ・デイ委員会」が開催したキャンペーンでのイメージカラーも黄色であり、日本でも父の日のイメージカラーは黄色と言われています。

家族のためにがんばっているお父さんに感謝の気持ちを伝えたいけれど、今更恥ずかしくて、という

そういえば、6月16日が「和菓子の日」であることをご存じですか？実はこの「和菓子の日」は、平安時代、仁明（にんみょう）天皇が「6月16日に“16”にちなんだ菓子などを神前に供えるように」という神のお告げに従ったことが「和菓子の日」のそもそものはじまり、といわれています。一色町にある半田屋さんのあんこはとてもおいしいですよ。おすすめです。